

四季折々の詩

麻里布中学校
令和8年5月14日 No.258
Tel 22-2234 FAX 22-2235



令和8年生徒会スローガン「挑戦 ～つなげ麻里布（ふるさと）への愛～」

4月9日の新入生オリエンテーションで、生徒会の新しいスローガンが発表されました。今年のスローガンは、『挑戦 ～繋げ麻里布（ふるさと）への愛～』です。

このスローガンには、「学校と地域を麻里布への愛で繋ぐために、これまでにない新しい取組や活動に「挑戦」する。」という思いが込められています。スローガンの決定にあたっては、生徒や保護者からいただいた学校評価を生徒会が分析しました。その中で、生徒が地域とのつながりが少ないことや地域の活動に参加していないといった課題が明確になったことから、このような力強いスローガンとなりました。



育友会総会「学校・家庭・地域の連携強化」

4月30日、学校公開、育友会総会、部活動懇談会が開催されました。午前中に開催した学校公開はあいにくの雨でしたが、多くの保護者の方が足を運ばれ、生徒の学習の様子を参観されていました。また、午後開催された育友会総会では、昨年度の事業及び決算報告、今年度の事業計画及び予算案の審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。なかでも、今年度は、子どもたちの教育活動の支援として、大きく2点が変更となります。1点目は、育友会組織と学校組織の連携です。育友会には3つの委員会（「広報委員会」「文化委員会」「環境委員会」）が組織されていますが、それぞれを広報委員会（キャリア教育）、文化委員会（学びの育成）、環境委員会（心と体の育成）の役割として、教員組織、生徒会組織との連携を強め、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの育ちや学びを支えていくこととしました。2点目は、8月に実施していた親子ふれあい奉仕活動は、猛暑のため形を変えて実施することとなりました。具体的には、すでに参加されておられると思いますが、各自治会で実施されている環境整備活動に親子での参加を促すこととしました。これにより、生徒は、地域の一員としての自覚を高め、よりふるさとへの愛着を高めることが期待されます。自治会の清掃活動は学校での把握が困難ですので、各自治会からの回覧等を確認され、ぜひ、親子で参加されますようお願いいたします。

4月26日に、麻里布中学校がある室の木東自治会で行われた清掃活動には、自治会の生徒に加え、生徒会が募集したボランティアを含め、22名の生徒が参加し、地域の方々と共に学校周辺の環境整備を行いました。



小中一貫・地域連携教育目標「ふるさとを愛し、自ら学ぶ、たくましい児童生徒の育成」
今年度の重点項目「仲間と連携し、地域に貢献できる生徒の育成」

キーワード【連携・協働・共創】

本校は昨年度、創立 70 周年という大きな節目を迎えました。これまで本校を支えてくださった地域の皆様、そして歴史と伝統を築いてこられた先輩方に深く感謝申し上げます。この節目にあたり、本校では、これまでの歩みを継承するとともに、新たな風を取り入れ、次代を担う子どもたちの成長を支える学校づくりを進めていくことを確認いたしました。

さて、現在、私たちは AI の出現に象徴される急速な社会の変化の中にいます。AI は、コミュニケーションの機会を広げたり、自分の考えを表現する手助けをしたり、興味に応じた情報収集を容易にしたりと、私たちの生活に大きな影響を与えています。一方で、言葉をどのように使うのか、また、その意味をどのように受け止めるのかを最終的に判断するのは、あくまで人間です。だからこそ、多様な情報を適切に捉え、自ら考え判断する力が、これから一層重要になります。このような社会を生き抜くためには、子どもたちが同世代の友人との関わりだけでなく、多様な人生経験をもつ大人との関わりの中で、人と関わる力を育てていくことが必要です。また、与えられた社会に適応するだけでなく、自らが生活する社会を自分たちの手でよりよく創っていかうとする力も求められています。

このような考えのもと、本校では、小中学校連携教育目標「ふるさとを愛し、自ら学ぶ、たくましい児童生徒の育成」を掲げ、小学校入学から中学校卒業までの 9 年間を見通して子どもたちの学びや育ちを支えています。昨年度からは「仲間と連携し、地域に貢献できる生徒の育成」を重点とし、今年度は「連携・協働・共創」を指標に、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進してまいります。

これからも、地域に愛され誇りある麻里布中学校であり続けるよう努力して参りますので、どうぞ本年度も皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

校長 山本敦士

